文部科学大臣杯・国土交通大臣杯

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2017 実施報告書

実行委員長　塩野﨑 英二

（一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事）

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙、普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して当連盟が主催して毎年実施しています。

本年も後援いただきました東京都の都民還元事業として開催期間中に会場周辺の海上で都民の方を対象としたヨット体験試乗会やレース観戦を行いました。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。

また、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下 JJYU）の名称、設立趣旨にもありますように、クラブとして参加頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという会長特別賞を設けており、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は海外から招待のオーストラリア、ニュージーランド、ロシア、香港、韓国、タイの 6 クラブと国内では北は青森県から南は大阪府までの 15 クラブを迎えて開催しました。

8 月 4 日の開会式、国際交流会は上記海外 6 チーム、国内 15 チームの 126 名の選手・コーチ、90 名を超える応援の父兄を迎えて、運営役員も 80 名余の 300 名に近い規模となりました。

練習会

開会式に先がけて行われた練習会には翌日にレース参加する殆どの選手が練習を兼ねて練習会に参加しました。

練習会では運営役員も A・B 海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。

開会式

開会式はハーバーでなく立派なホテルマリナーズコート東京の宴会場ということで選手、指導者、大会役員も少し緊張気味の中、少し予定より遅れて始まりました。

開会式は競技会委員長の JJYU 伊藤雅宣専務理事の競技会開会宣言、競技会副会長の JJYU 佐藤精知夫会長代行の挨拶と続きました。

ご来賓としては、二名の方々にご挨拶を頂きました。業務多忙なところ江東区長山崎孝明様より心からの歓迎のお言葉を頂戴致しました。次に競技会の共催を頂いている公益財団法人東京都スポーツ文化事業団より国際交流・競技力向上事業担当部長　松井るな子様から激励の言葉を頂戴致しました。ご来賓として後援団体から江東区地域振興部スポーツ振興課長の市村克典様、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部計画担当課長　原田幸定様、来年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2018 の開催予定地から大分県セーリング連盟会長　堀井伸一様、理事長 五十川(いかがわ) 浩司様、日本オプティミストディンギー協会理事長を務められている別府ジュニアヨットクラブ代表　濱本徹夫様をご紹介させて頂きました。

続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を佐藤精知夫副会長立会いの下、江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの３名（富永 晏吏(あんり)、飯塚 竜士(りゅうと)、北浦 菜月(なつき)）、選手宣誓を江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの２名（上条久美子、重松駿）の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に恒例の安全講習会を丸山理事・医療救護部長が熱中症を中心に説明し、競技運営説明会はA海面、B海面に分かれて行いました。

開会式司会進行の佐藤さんと野村さん

競技会開会宣言（JJYU 伊藤専務理事）

JJYU 佐藤会長代行ご挨拶

海外チームのコーチたち

江東区長山崎孝明様

東京都スポーツ文化事業団の松井るな子様

開会式に掲揚された 6 カ国の国旗

「山中湖宣言」

選手宣誓

丸山先生による安全講習会

B 海面競技説明会

A 海面競技説明会

国際交流会

国際交流会は開会式会場を安全講習会等の間に模様替えして、参加者は食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げられました。

佐藤競技会副会長から、外国 6 チームの指導者代表にそれぞれ記念品を贈呈しました。

今回のアトラクションは真正会・鈴木道場の鈴木館長、師範とスタッフ４名による空手演武と即席空手教室で瓦や木片割り等に日本チームから海外チームまで子供達が入れ替わり参加するという、今までにない演出で国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。

JJYU 安井副会長ご挨拶

都連鈴木会長代行による乾杯

木片割に挑戦

香港チーム

オーストラリアチーム

ニュージーランドチーム

韓国チーム

タイチーム

ロシアチームとの記念品交換

JJYU 佐藤会長代行から記念品贈呈

サプライズ！　ハッピーバースデー青山知央さん

A 海面のレース状況

今競技会は 2 日間を通し微風、風の振れ、潮に運営側、選手ともに苦戦するレースとなりました。

【8 月 5 日（土）競技会初日】

選手ブリーフィング終了後、北風が残る中、定刻にD旗掲揚全艇出艇しました。気温上昇とともに東風 4～6knot が入り出したため、風軸が振りきるのを待ち、約 1 時間遅れにて最初の種目国際 420 級/F J 級の予告信号U旗を掲揚、引き続きレーザー4.7、ＯＰ級上級者がスタートしました。午後からは更に南に振れ、風速が上がると期待されましたが、吹き上がる事は無く、軽風に終始しました。初日のレースは終わりかと諦めかけた 16 時前にようやく 8～10knot の風が出て来ました。デッキの中で小さくなっていた選手も、最終レースはようやくハイクアウト、トラッピーズに出ることが出来ました。国際 420 級/FJ 級は予定通り 5 レース、レーザー 4.7、OP 級上級者は 4 レースを実施して初日を終了。終日海面は向い潮が強く、スタートラインは凹み気味。またＯＰ級上級者第 2 レース 1 マークではマーク回航時に潮に押されてマークタッチし、解消をしない艇が散見されました。レース委員会から多くの抗議を出さざるを得なかったことは非常に残念でした。また、レーザー4.7 第 3 レースでは上位陣が 3 マークでのコース変更指示を見落とし、変更マークを回らず失格となってしまいました。結果は 7 位でフィニッシュした艇がトップになるという波乱となりました。

【8 月 6 日（日）競技会 2 日目】

初日に続き、風速は弱かったが、早朝から風向が南東にシフトしていたため、風速が上がることを期待し、定刻通り第 1 レースの予告信号を掲揚しました。しかし、スタート直前に大幅に東にシフトしスタートを延期しました。その後も東～南東～南と風軸が定まらず、1 時間後ようやく南風でレーザー4.7 からスタートしましたが、微風に加え初日に引き続き強い向い潮の為、1 マークまでの距離 600m と短い設定にもかかわらず、1 マークでタイムリミットとなり、海上本部船にN旗掲揚、ノーレースとなりました。

その後も 5knot 以下の風速とシフティーなコンディションが続き、風待ちすることとなりました。

11 時過ぎに東南東で落ちついたためレース再開して、競技会 2 日目は各クラス 1 レースのみ成立しました。

最終的に国際 420 級/FJ 級は 6 レース、レーザー4.7、OP 級上級者は 5 レースにて競技会終了となりました。

成績は国際 420 級は 6 レース中 5 レースでトップフィニッシュを決めた林玄・田原隼宇（葉山町セーリング協会）が圧巻の走りを見せ優勝。また今春に OP 級から乗り換えたばかりの葉山町セーリング協会の中学２年生女子コンビ（青山知央・田原瑠華）も全レース 3 位以内とまとめ準優勝と葉山町セーリング協会の強さが際立ったレースとなりました。

FJ 級は 3 艇と少ない参加艇数でしたが、3 レーストップフィニッシュを決めた根本優樹・寺田航（早稲田大学高等学院ヨット部）が優勝しました。

レーザー4.7 はチャーリーマークを間違えなかったオーストラリアの選手が優勝しました。
日本人選手では、安定した走りで渡辺桜香（ユースチーム東京）が優勝しました。
OP 級上級者は 5 レース中、4 レースをトップフィニッシュしたタイの選手が 1 位、2 位と圧巻の走りを見せてくれました。日本人選手では、初日のトップ藤森佑太郎（千葉ヨットビルダーズクラブジュニア）を 1 点差で重松駿（夢の島ヨットクラブ）、4 点差で岡田爽良（藤沢市青少年セーリングクラブ）と接戦で 2 日目を迎え、この接戦を制したのは、2 日目に 3 位に入った岡田選手が見事逆転優勝を決めました。

陸上本部

国際 420 級、FJ 級のスタート

OP 級上級者のスタート

上マーク回航

タイ選手によるフィニッシュ前のワン・ツー争い

レーザー4.7 のスタート

ニュージーランド選手がオーストラリア選手を押さえてフィニッシュ

B 海面のレース状況

OP 級初級者の参加は、関東・東北エリアの 17 名で、うち 2 名がチャーター艇でした。

【８月４日（金）練習会】

練習会は出艇申告書を確認の上、12 時 40 分に出艇させ、B 海面で実施しました。運営艇は 1 艇のみで、上マーク、下マークお及びスタートアウターを設置してのコース練習を行いました。練習はソーセージコースで 3 レースを行い、13 時 50 分に終了しました。

【８月５日（土）予選】

選手をあらかじめ一定のルールで 4 ディビジョンに分け、2 つのディビジョン同士が対戦し、計 6 レースで結果を出すこととしました。

風速 6 ノット、風軸 50 度の風でしたので、昨年度の反省から、潮流の影響を考慮してソーセージコースを設定しました。第 1 レースは予定の 2 分遅れの 9 時 32 分に予告信号を発しました。想定通り、上げ潮の影響を受けて上りコースでは帆走が十分にできない艇が続出しましたが、トップ艇が 21 分を要してフィニッシュしました。帆走技術と練習量の差が表れ、最終艇はタイムリミットのギリギリでフィニッシュし終了しました。

風向は次第に東から南東よりにシフトし、風速 8 ノットになり、マークを打ち変えた後、2 レース目を 10 時 25 分にスタートさせました。トップ艇は 6 分でフィニッシュし、全艇順調にフィニッシュしました。3 レースも順調に推移し、11 時 10 分には全艇を陸上に戻して昼食時間のための休憩としました。

休憩後、第 4 レースは 12 時 40 分にスタート、第 5 レースは 13 時 00 分スタート、第 6 レースは 13 時 25 分にスタートし最終艇が 13 時 36 分にフィニッシュしレースが終了しました。これにて予選の 6 レースはすべて終了しました。

順調に予選レースを消化したため、艇を片付けた後、都民の体験試乗会が終了したギグ 2 艇を利用して A 海面に行き、上級者クラスの帆走を見学しました。

【８月６日（日）決勝戦】

8 時 20 分に指導者・選手を集めて、予選結果の下位 9 名と上位 8 名に分け夫々識別リボンを渡しました。

決勝戦は 140 度、8 ノットの風で、予選と同様ソーセージコースでレースを行うこととしました。

第 1 レースは予定通り 9 時 35 分に予選下位グループの 9 艇をスタートさせました。
続けて同じグループで第 2 レースを行い、レース結果を本部船内で直ちに計算して、上位 3 艇を残し、他 6 艇は陸上に戻しました。

決勝戦は 11 艇で 2 回行いましたが、さすがに上位グループだけあって、安定した走りを
みせ、接戦となり、団子状態でフニッシュとなりました。続いてレースを行い、決勝レースは 11 時 22 分に無事終了しました。

結果は成績表の記載の通りですが、特筆すべきは予選 9、10 位の鈴木しおんさん、結解（けつか）太郎君が夫々5、6 位で入賞したことでした。

B 海面陸上本部

B 海面本部艇

Ｂ海面の俯瞰

１日目のレース終了後にギグからＡ海面のレースを見学

≪ＯＰ級初級者　決勝戦の様子≫

決勝戦のスタート風景

トップ艇が上マークを回航

次々に上マークを選手達が回航

下マークに向かう上位艇

海外招待チームの状況

今年の競技会にはオーストラリア・香港・ニュージーランド・ロシア・韓国・タイの 6 か国からレーザー4.7 級 6 名・OP 級上級者 13 名の選手及びコーチ・父兄 22 名、総勢 41 名が参加しました。レース前日の国際交流会パーティーでは、海外チーム選手と日本人選手が言葉の壁を乗り越えて食事を共にしながら交流を深めていました。またアトラクションの空手演武では海外チームの方たちが大いに盛り上がっていました。

レース海面では昨年と同様に各国コーチがコーチボートから自国選手へ積極的にアドバイスを出し、その期待に応え各選手は素晴らしいセーリングを展開していました。国際交流個人対抗レース OP 級上級者ではタイの 2 選手が総合 1、2 位、レーザー4.7 級ではオーストラリア、ニュージーランド選手が総合 1、2 位を獲得、海外チーム戦ではタイチームが優勝を飾りました。

海外チームの指導者たちでは毎年参加している方々が多いのですが、今回も各国コーチ・父兄から日本側のおもてなし・レース運営等はとても素晴らしいものであったとの感想を頂き、各国ともに来年開催地の大分にも是非参加したいとの言葉を残してご帰国されました。

今年は、宿泊ホテルの夕食提供はやめて朝食のみとしたので、例年ホテルに断らずに外食をしてホテルを困らせるようなこともなく、各国とも外での食事を楽しんでいました。

都民のための親子ヨット体験試乗会

競技会を後援いただいた東京都の都民還元事業として 8 月 5 日に親子体験試乗会・ヨットレース観戦会を行いました。9：30 の受付開始に対して 9 時前から数家族がハーバーに顔を出され、親子でのヨット体験を楽しみにされている様子でした。当日は猛暑でしたが試乗会にはもってこいの微風の中、10 家族 26 名の参加者がギグという動力付きヨット 2 艇に乗船し午前中と午後に出艇し、試乗・観戦を楽しみました。参加者からは「風がとても気持ちよかった」「エンジンを切った後の静かな中のセーリングが快適でした」等々、初めてのヨットを充分に楽しんで頂けたようです。

午後の試乗では沖のレース海面の近くまで帆走し、レース観戦もして頂きました。

体験試乗会に参加の皆さん

医療救護部から

連日３０℃を超す猛暑の競技会で、熱中症等を心配しましたが、開会式後の丸山晴久医師の安全講習会をはじめ、水分補給に関して充分な対策を取るよう参加選手、クラブの指導者に徹底したお蔭で、ほとんど問題なく競技会を終了することが出来ました。

これもアサヒ飲料株式会社ご提供の飲料水、お茶、サイダー等の飲物が競技会期間中に十分に配られたことも大きいと思います。

唯一、5 日に 2 名（小学 6 年生男性 1 名、中学 1 年生女性 1 名）着艇してから頭痛を訴えた選手がいましたが、救護ルームで体温を測定し、水分補給および体温冷却などの処置により回復しました。

閉会式

競技会３日目は風向が定まらず微風の中なんとか 1 レース終える事が出来ました。閉会式までの時間に艇の片づけや帰り支度をしながら、エスビー食品株式会社ご提供のカレールーで、一昨年から恒例のコロッケを乗せて作って頂いたカレーライスの昼食を楽しみ、閉会式もほぼ予定通り開始することが出来ました。

佐藤精知夫競技会副会長が競技会会長の代理挨拶、高橋祐司レース委員長による成績発表及び表彰に続き、高間博之プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

一昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には、本年は個人ではなく、みやこジュニアセーリングクラブが選ばれました。

海外チーム指導者代表としてタイの Taweeyot Rattanaseen (タウイヨッ)さんにご挨拶を頂きました。

締めは高橋祐司競技会副委員長の競技会終了宣言と来年大分県別府市で各クラブの選手、指導者と保護者の方々とまたお会い出来ることを約束して無事閉会式を終える事が出来ました。

閉会式を待つ間に恒例となったカレーの昼食で腹ごしらえ

JJYU 佐藤会長代行のご挨拶

海外チーム指導者代表（タイチーム）のご挨拶

主な成績

小澤吉太郎特別賞　　JJYU 創設者小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップに溢れたクラブを表彰しました。

★みやこジュニアヨットセーリングクラブ（クラブ代表　橋本久夫氏）

JJYU 会長特別賞　　「国内クラブ対抗レース」の上位 3 クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

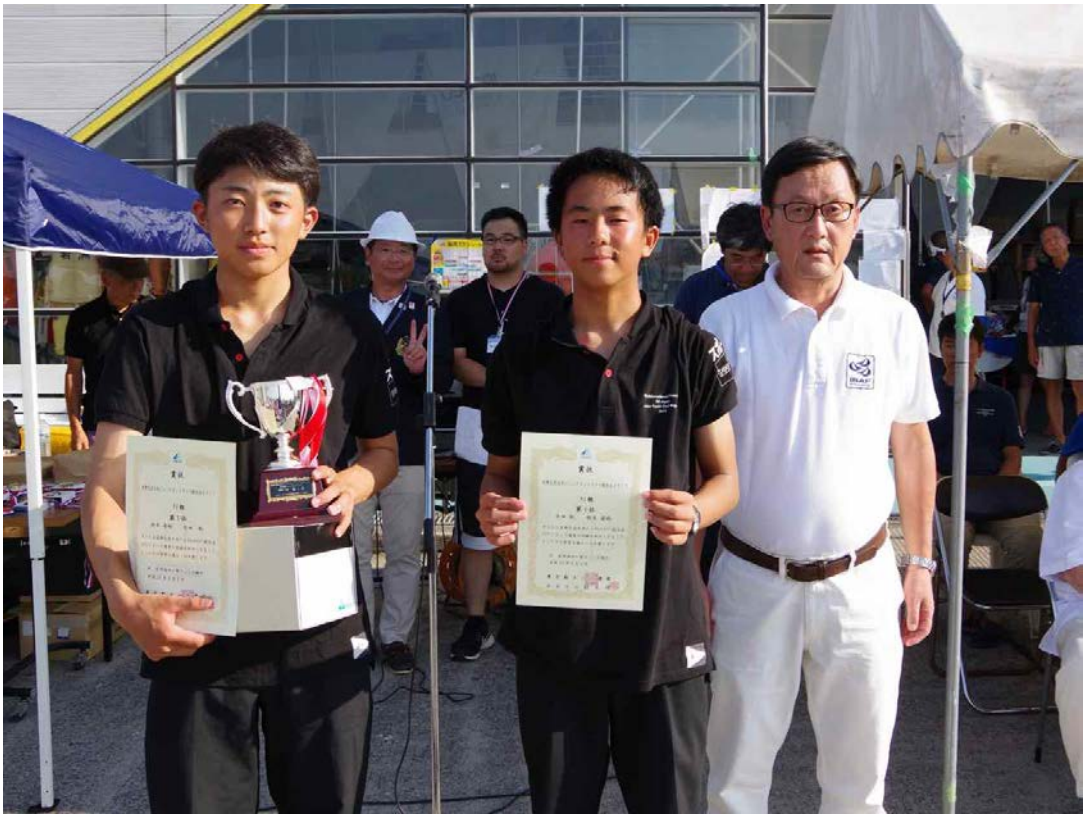
第 1 位　江東区立小中学校セーリング部　（クラブ代表　浜崎濠次郎氏）

第 2 位　葉山町セーリング協会　（クラブ代表　青山義弘氏　代理　浅野文子氏）

第 3 位　夢の島ヨットクラブ　（クラブ代表　沖山雅彦氏　代理　宮本義明氏）

特別表彰

「文部科学大臣賞状・賞杯」「奥村純雄杯」	ＯＰ級上級者	岡田 爽良（そら）	藤沢市青少年セーリングクラブ
「国土交通大臣賞状・賞杯」「小澤吉太郎杯」	ＯＰ級初級者	中川 祐太	江東区立小中学校セーリング部
「東京都知事賞状・賞杯」	レーザー4.7	渡辺 桜香	ユースチーム東京
「江東区長賞状・賞杯」	国際４２０級	林 玄・田原 隼宇（しゅう）	葉山町セーリング協会
「東京都ヨット連盟会長賞状・賞杯」	FJ 級	根本優樹・寺田 航（こう）	早稲田学院高等学院ヨット部



国際交流個人対抗レース

ＯＰ級上級者	第１位	Phiranpat Sukontasub	タイチーム
	第２位	Chalisa krittanai	タイチーム
	第３位	岡田　爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ

レーザー４．７	第１位	Lawson McAullay	オーストラリアチーム
	第２位	Harry Corston	ニュージーランドチーム
	第３位	渡辺　桜香	ユースチーム東京

国内個人対抗レース

ＯＰ級上級者	第１位	岡田 爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第２位	藤森 佑太郎	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア
	第３位	重松 駿	夢の島ヨットクラブ
	第４位	鈴木 海翔（かいと）	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
	第５位	梶山 真央	江東区立小中学校セーリング部
	第６位	重松 陽（ひなた）	夢の島ヨットクラブ

ＯＰ級初級者	第１位	中川　祐太	江東区立小中学校セーリング部
	第２位	飯塚 竜士	江東区立小中学校セーリング部
	第３位	北浦 菜月	江東区立小中学校セーリング部
	第４位	山口 悠吏	夢の島ヨットクラブ
	第５位	鈴木 しおん	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
	第６位	結解 太郎	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第７位	松原 啓悟	江東区立小中学校セーリング部
	第８位	森居 昴太郎	YMFS ジュニアヨットスクール葉山

レーザー4.7	第１位	渡辺 桜香	ユースチーム東京
	第２位	荒木 智也	江東区立小中学校セーリング部
	第３位	松岡 美波	いわきジュニアヨットクラブ

国際４２０級	第１位	林　玄・田原 隼宇	葉山町セーリング協会
	第２位	青山 知央・田原 瑠華	葉山町セーリング協会
	第３位	谷口 美羽・坂井 友里愛	ユースチーム東京

FJ 級	第１位	根本 優樹・寺田 航	早稲田大学高等学院ヨット部
	第２位	萩尾 和真・金澤 隼斗	早稲田大学高等学院ヨット部
	第３位	宮本 星藍・永嶋 杏樹・石川 翔一	東京都立日本橋高等学校ヨット部